1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年11月12日発行　SSKU増刊通巻 第6266号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!

潮騒 JTC が人間塾講話などで活動拠点としている鹿嶋市まちづくり市民センターの恒例イベント、「第12回て～ら祭」が11月3、4の両日、同施設で開かれました。潮騒では今年も人気の100円焼きそば2,300食を売り切ったほか、すっかり定着した潮騒エイサーの演舞でステージ発表を盛り上げました。

2018
11

人間としての回復、再建、再構築の段階に

師走を前に朝晩寒さが厳しくなりましたが、皆様お変わりありませんか。私は「案ずるよりも産むが易い」が生活信条なので、仲間達や自分の回復につながる可能性があるなら、いろんなことにチャレンジしたいという立場です。そのため潮騒独自の就労支援活動に力を入れてきましたし、話題の「スマープ」や「RD」プログラムも積極的に取り入れてきました。私が潮騒の代表でいる限り、その姿勢は崩したくないと考えています。「相変わらずの行動力だね」「年の割にはフットワークがいいね」「バイタリティーの根源は何？」などと周囲から驚かれますが、私は性格的に頭であれこれ考えるよりも、「物事はやってみないと分からない」「ダメなら諦め、次の手を考えればいい」。そんなシンプルな姿勢で、あまり先を考えずに無鉄砲とも思える型破りな行動力が功を奏したのか、潮騒はいろんな困難を乗り越えながら施設規模を大きくし、徐々に鹿嶋の地から鹿行地区へとシフトし、その地歩を固めつつあります。依存症を中心に、行き場のない多様な問題を抱えた仲間にも門戸を開いてきたので、これまでの「アディクションビレッジ（依存症村）」から「リカバリービレッジ（回復村）」構想へと、潮騒の施設運営ビジョンも変化しつつあります。

そこで次に問われるのは、「回復とは何か？」です。潮騒に漂着する人達はそれぞれに固有の物語があります。つまり入寮者の数だけ問題を抱えています。以前は依存症という括りで納得できていたものが、今ではその範疇を超えて多様化が激しく、まるで心に傷を負う者達が集まるデパートと化しています。なので個々の回復のレベルも意味合いも異なり、幅広い回復基準を設けなければ今後の施設運営は行き詰ってしまいます。もちろん多様な障害を持つ者が混住し合うことで、国が指し示す制度的な回復実績の枠には囚われない“不思議なパワー”が潮騒を下支えしている側面は否定できません。私には難しいことは分かりませんが、クリーン15年の経験を踏まえて言えるのは、アルコールやクスリ、ギャンブルを止め続けているというだけでは、どうやら自分を持ちこたえられなくなってきたなあ、という実感です。それは比較的長くクリーンを保っている古株の仲間を見ていても思うことです。説明が難しいのですが、私達は日々ミーティングに参加し、回復のプログラムに取り組めているお陰で、それなりに毎日が楽しく、充実しています。でも、何かが足りないのです。仲間内で使う言葉でいえば「霊的な目覚めと成長」なのかもしれません。

残り少なくなった人生を、自分の、そして仲間達の回復に捧げる、という私の決意はみじんも揺るぎません。でも、その決意が今後「空回り」しないためにも、次なる回復ビジョンを描くことが求められています。どうやら私自身が依存症の回復だけではない、人間としての回復、再建、再構築をしないといけない段階に差し掛かっているようです。幸い私は熱い魂を持つスタッフ、職員、そして地域に根を張る支援者という強い味方に恵まれています。「まだまだ大丈夫、手を挙げるには早すぎる」と自分を鼓舞する毎日です。

（センター長 栗原 豊）

て～ら祭 「て～ら」とは鹿島の方言で「人たち」の意味

2日間で100円焼きそば 2,300 食を売り切る

「いらっしゃいませー」「焼きそば100円ですよ。いかがですかー」「手作りのクラフトもありまーす」。秋晴れが続く11月3、4の両日、鹿嶋市宮中のまちづくり市民センターで「第12回て～ら祭」が開催され、潮騒ジョブトレーニングセンター（JTC）が恒例の模擬店を出店し、ふれあいステージ発表会の舞台ではエイサーの演舞を披露してイベントを盛り上げました。潮騒ブースのテント前では、活気あふれる女性メンバーの大きな声が響き、安くておいしいと評判の焼きそばは 2日間で約2,300食を売り切りました。

てーら祭の「て～ら」とは、地元鹿島の方言で「人たち」を意味する言葉です。潮騒JTCは第２回目から模擬店を出店して焼きそばとフランクフルトソーセージを販売しました。多くの参加団体に出店してほしいという主催者側の意向で１品目に絞ることを求められたため、第３回目の出店時にはソース焼きそばと塩焼きそばを販売しました。しかし、塩焼きそばは、調味料と具材にコストが掛かり過ぎたために販売を断念。第４回目以降は、焼きそばのパックを一回り小さくし、売り値を100円に下げて販売しています。野菜が生焼けにならないよう、そばと具材を別々に炒めるのが一味違う潮騒 JTCの焼きそばです。買い求めた人たちからは「安くておいしい」「量がちょうどいい。色々な模擬店の味が味わえる」など、評判は上々でした。

初日の模擬店には、女性6人と男性18人のメンバーが潮騒ブースに立ちました。午前 7 時半から会場入りして前日用意した具材やそばを持ち込み、農業隊が育てたパパイヤと女性ハウス「るみの家」で手作りした編み籠（かご）やミサンガ、象さんタオルなどのクラフト作品を店頭に並べてオープンの準備は完了。店頭では、焼きそばを作る男性メンバー２人が両手に大きなへらを持ち、焼けた鉄板の上に1キロ入りのそば３袋を広げてソースなどの調味料を加えて焼き返します。もう一方の鉄板では、男性メンバー１人がタイミングを見計らいながら具材の挽肉とキャベツ、モヤシを炒めて味付け。焼きそばを調理する鉄板に運んで炒め合わせます。テントの中では、ほかの男性メンバーらが出来た焼きそばをパックに詰めて紅ショウガと海苔を振り掛け、輪ゴムを掛けて発泡スチロールの箱に収納。手際のいい流れ作業が途切れなく繰り返されます。

焼けたソースのスパイシーな匂いが漂うテントの前には、訪れたお客さんたちが立ち寄って並び、次々と買い求めていました。予定より早い午後1時半ころには用意した約1,200食が完売しました。女性ハウスの施設長・るみさんは「鹿嶋市には大変お世話になっています。儲けは考えず安く提供していますが、売り切れは心苦しい。来年は2日間分で3,000食を用意したい」と意気込みを話してくれました。

エイサーの演舞は３日に行われたステージ発表会の最終組に登場しました。白塗りの顔で現れたヒトシさん（農業隊リーダー）が笑わせ役「チョンダラー」に扮して司会を担当。エイサーのメンバーを次々に舞台に呼び込んで観客を沸かせた後、一糸乱れぬ太鼓と活気あふれるエイサーが披露されると、会場に大きな拍手と感動があふれました。（岩）

第7回

潮騒 人間塾

日本ダルク・スタッフ 田代まさし（マーシー）氏

「“マーシーギャグ”満載で 回復メッセージに新境地」

第7回「潮騒人間塾」が10月13日、鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館3階の多目的フロアで開かれ、元芸能人で日本ダルク・スタッフの田代まさし氏（マーシー）が講師を務め、得意のダジャレを交えた軽妙トークで入寮者を沸かせました。請われて各地の講演などで忙しいマーシーですが、この日は気のおけない依存症の仲間たちに向け、刑務所での経験やダルクにおける回復途上の歩みを踏まえ、薬物依存症の回復の難しさをユニークな切り口で話してくれました。潮騒では当事者の過去の職歴を一概に否定せず、仕事で培った技能や技術を生かした就労支援と回復に向けた独自の環境づくりに力を入れています。その意味から、かつてマーシーが芸能界で活動していた際に身につけたスキルを生かした、彼にしかできない独自の回復メッセージのスタイルを支持しています。

◇　◇　◇

この日の講話でマーシーは「俺にはまだハイヤーパワーは何もしてくれていないけど、ここ（潮騒）に居るのは必然だと思える。栗原センター長の生き様も好きだし…」と切り出し、通算7年に及んだ刑務所での経験を披露。「刑務所で依存症が直るんなら、なぜこんなに覚醒剤の再犯率が高いの？ おかしいでしょ」と素朴な疑問を投げかけました。受刑者同士の矛盾に満ちた笑い話のような会話を次々に紹介し、「マーシー、変な所からネタつかむから捕まるんだよ。今度は俺から買いなよ、絶対捕まらないからって、そいつが言うんだけど、おいおい、お前今捕まっているからここにいるだろうって、そんな話ばっかりだよ。ここで回復すると思います？ 刑務所は悪のコネクションが広がるだけ」と鋭く指摘し、リアルな体験談に受刑経験のある入寮者にはひときわ深い共感を得ていました。

マーシーは、ダルクが自分の居場所になったエピソードも明かしました。山梨ダルクの誘いで日本ダルクの近藤恒夫さんらと温泉に入った際に、「夕日に染まる美しい富士山を見ていたら、クスリがどうのこうので悩んでいた自分がちっぽけな存在に思え、環境を変えようと決意した」と言います。その晩、旅館の部屋で自分用のコップの中に近藤さんの入れ歯が入っており、怒るどころかアバウトで鷹揚な人間性のスケールに惹かれたようです。マーシーは「入れ歯って、人前で外したら恥ずかしけど、仲間の中でならさらけ出していいんだよ、在りのままの自分でいこうよ」とメッセージしていると受け取り、「入れ歯だけに歯が立たない」と軽くダジャレを効かすサービスを忘れませんでした。

このほか、自分の生い立ちや母親のユニークな子育て教育の仕方、自分の短期な性格から引き起こしたトラブルも忌憚なく話してくれました。もちろん、一時期は天才的と評されたダジャレの才能の片りんを伺わせる、オリジナルなダジャレフレーズの数々や、洒落を効かしたグッズ商品の構想も惜しげもなく披露してくれました。

かつて芸能界という浮き沈みの激しい世界で人生における天国と地獄を味わってきたマーシーですが、「クスリではこの短気な性格は治らない。だから俺は今もけんかをする。みんなと何も変わらない」。そんな風に回復を

目指す無名の仲間の一人を強調。その上で「長いスパンだとプレッシャーになるけど、“きょう一日”はいい」「今でも目の前に覚醒剤を出されれば必ず使ってしまう。強い意志なんて何の役にも立たない」。本音をのぞかせながらも、マーシーはダルクでの生活でクリーンを積み重ねたギフトとして、「16年間会えなかった娘に会えるようになった」と嬉しそうに報告して、人間塾講話を締め括りました。

ミニー感想文　テレビと変わらず刑務所の話が面白かった

マーシーが講師を務めてくれた潮騒人間塾イベントに、女性ハウスメンバーと一緒に参加しました。テレビでは見たことがあっても、現実には見たことがなかったので、とても楽しみでした。実際にお姿を見て、お話を聞いて、テレビと変わらず面白かったです。なかでも個人的には刑務所の話が面白かったです。マーシーを見習って（また刑務所に入りたいとは思いませんが…）、マーシーみたいな前向きな考えで受刑者生活を送れば良かったと思いました（笑）。

メーテル感想文　「一日一日を大切に、やらない自分でいたい」

マーシーが「法律で覚醒剤については初犯の時にものすごく刑を重くした方がいい」と言っていたことは納得してしまいました。それ以外にも「目の前に覚醒剤を置かれたらやってしまう」「そのぐらいの威力がある」ということ。誰でも一回やってみれば気持ちが分かる」「だから何回も手を染めてしまう」―などを自分の体験から話してくれました。

最後に、質疑応答の時に女性ハウスの仲間「内職や手芸をしている時に覚醒剤をやっていたらもっと速く、上手くできるのにと思ってしまうのですが、マーシーさんはどう思いますか？」の質問に、「今の自分のできることをやればいい、欲張ってはいけない、あるがままの自分でいること」と答えてくれました。最後に「1日1日を大切に、（クスリやアルコール、ギャンブルを）やらない自分でいてください」とメッセージを頂き、潮騒の仲間全員で拍手をしました。

イルカ感想文　「お互いがんばりましょう」と言う気持ちに

講話を聴いて、マーシーの言っていることって、私が思っていたことと一緒だなぁーと思いました。マーシーは「1回ぐらいなら嵌まらないだろう」「手を出しても簡単にやめられるだろう」と思ってやってしまったけれど、それがやめられない状態になって、刑務所に何回も入って…、そう話してくれました。私は刑務所には入ってないけれど、それでもやめられていない自分が、今ここにいます。

マーシーは血液検査の時、血管が注射器の中に入って行くのを見て興奮したり、血管がなかなか見つからないときに、「自分でやった方がうまく行くのに…と思ったりする」というけれど、そんな時が私にもあります。私はアブリの経験は1回しかないけれど、注射器でやる方が即効性があっていい、とも思ったりもしたけれど、でも、とにかくマーシーは近藤さんと出会ったことで、（回復のレールに乗る）今のマーシーがいるのかなと思います。

この先も今のマーシーでいられるよう、エールを送りたいです。これからもマーシーに頑張って欲しいです。マーシーに言わせれば、きっと「お前もな！」と言われるかもしれないけれど、「お互いがんばりましょう！」と言う気持ちになりました。

クミ感想文　マーシーに潮騒で出会えたことに感謝したい

マーシーの話を聞いて、「この人もアディクトなんだ！」と改めて感じました。「目の前にあれば必ず使ってしまう…」の一言に、薬物を4年間使わずクリーンを維持していても、「それほど薬物は強敵なんだ」ということ。私はアルコール依存症だけど、マーシーの言うように「明日はどうなるか分からない」。だから「今日だけ」の取り組みが、依存症の人にとっていかに大切なのか、重要な意味を持つ言葉か、を痛感させられました。

それから日本ダルクの近藤さんやスタッフと一緒に温泉に入って富士山を見て、「自分はなんて小さい存在なんだ」と思ったとマーシーは話してくれましたが、私はミーティングをしていく中で、目先の事ばかりに囚われている自分の考えの小ささや、底の浅さを感じさせられました。今日、マーシーの話に耳を傾けることで、話をしっかり聞く大切さも教えられました。

マーシーが指摘したのは、薬物使用の恐ろしさと使用後の残す心のもどかしさ、それは自分だけじゃなくて、家族に長い時間会えないだけじゃなく、使用中の尿をペットボトルに入れ、奥さんが始末をしていたという事実。マーシーだから笑いに変えて話していたけれど…。でも、「私は来るべくして潮騒に来た」「出会うべくして出会った」と言うように、そのマーシーに潮騒で出会えたことに感謝したいです。

感謝と歩み

半生を振り返る

県定時制生徒生活発表大会に出場

潮騒スタッフのブーちゃんこと、保坂伸行さん（47）が10月6日に水戸市の県立水戸南高校で開かれた「茨城県高校定時制生徒生活体験発表会」に出場し、これまでの人生経験を通じて感じたことや今後の抱負などを「感謝と歩み」のテーマにして発表し、会場の参加者に感動を与えました。ブーちゃんはいち早く“灘高生”となった栗原センター長らに刺激を受け、四十の手習いとして現在、県立鹿島灘高校夜間部の2年生として勉学に励んでいます。（紙面の制約で一部省略）

◇　◇　◇

私は今47歳、クラスメートとは30歳も離れています。この歳になって高校夜間部で学びたいと思うようになったのには、いくつかの経緯があります。幼少期から小児喘息を患い、10歳の時に静岡県の健康学園施設に1年間預けられたのですが、子供心に「家にいちゃいけないのかなあ」と思うようになっていたのを覚えています。私の病気のために両親がしてくれたというのに、幼心にはそれが分からなかったのです。6年生から地元の東京へ帰れたのですが、久しぶりに会う友達に心を開くことなく卒業式を迎えました。中学生になり、バンド活動に誘われたのを機に友人が増えるようになりました。。

しかし、親の心配をよそにバンド練習の帰りなどを利用し、近所の学園祭ライブで知り合った大学生や友人の部屋で、時々飲酒をするようになっていました。そうやって目の前の現実から逃げながらも、都立高校へはどうにか入学することができました。その高校はバンド活動が盛んで、それをいいことに練習、バイト、遊びに明け暮れ授業をさぼるようになりました。先輩たちとの飲み会などが楽しくなり、そこが自分の居場所と感じていたのです。夕方からバイトや飲み会、明け方から先輩の家で寝て、気が向いたら学校へ行く。陰では親や先生、友人も支えてくれたというのに、情けないほどぐうたらでした。

原付バイク免許取得のため区役所へ住民票を取りに行ったのは、そんな一年の終わり頃です。その時、私の欄に養子と書いてあり、父が違うことが分かりました。のちに祖母から聞いたのですが、未婚で私を産んでくれた母は、私が三つの時に結婚をしたからでした。私は、母の事情や苦労した経緯を聞こうともせず家出をしてしまいました。「黙ってやがって…」「だから俺は思い通りにならないんだ…」と酒を飲みながらぼやいていたのです。

そして高2の冬に欠席日数をオーバーして、退学処分を受けました。呼び出された母は悲しそうにうつむいていました。今思うと、目の前の問題、学業、環境から逃げるために、未成年でありながら飲酒を機に退学になったこと、母を苦しませたことを、とても後悔しています。

その後、中華料理店で修行し調理師免許を取得。経営も経験しました。しかし、やけになる性格上の欠点も手伝い、お酒の飲みすぎが原因で入院もしました。入院中に知り合った患者さんのご家族、ケースワーカーの方とお話をした時、「自分自身ではどうしようも出来ないこともある」「色んな事情を抱える子供やご家族の役に立てるようになりたい」と思ったのが、福祉に関心を持ったきっかけでした。病院のケースワーカーに「自分もいつか福祉士の資格を取りたい」と相談をしていた時、「私のおすすめの居場所を紹介しますよ！」と言われ茨城に来ました。

現在、鹿嶋市の依存症回復支援施設で自分と同じように病気や生き方に苦しんでいる仲間の中でスタッフをさせて頂いています。福祉系の受験資格には高卒以上が条件の一つ。自分の歳を考え高卒認定試験でクリアしてみたいと施設長に相談してみたところ、「人は変われる。気持ちは分かるが、高校中退したときと真逆を生きてみなよ」と温かい目で話されていました。「そうだ。自分は通学を経て卒業することに意味があるのだ」と気づかされました。施設長と学校側の力添えもあり去年から、我が鹿島灘高校へ入学することが出来ました。

70歳を超えたセンター長は一学年先輩の3年生として通学をしていて心強いです。夜間部の生徒、先生方はとても明るくて、優しく接してくれます。去年と今年のバドミントン大会はとても盛り上がり楽しい思い出となっています。現場で福祉を学びながら、あと2年半しっかり通学し卒業する事が、今目の前の目標です。最後になりますが、周りの人たちからの支えや教えが、「親父の小言と冷酒はあとで効いてくる」の言葉のように、この歳になってジワリジワリと感じています。ですが、まずは一社会人、一学生として、自分に起きていることへ感謝し目標と足元を見失わずに歩んでゆきたいと思います。

潮騒家族会

メッセージ

ブーちゃんの母

息子の回復を信じて一緒に歩もうと決意する（前半）

以前に潮騒通信の「我が回復記」のページで連載させて頂いた“ブーちゃん”の母です。私はアルコール依存症の息子が回復記を書いているのを、連載の途中から知りました。今回バックナンバーを得て全体を読み終え、「ああ息子はこんなにも苦しんでいたんだ」と胸が締め付けられる思いでした。私は母親として息子のことをそれなりに理解していたつもりでしたが、そこには私が知らなかった“事実”が結構あり、依存症という病気の根の深さを思い知りました。息子は何度か精神科病院に入院した過去があり、私もできるだけ病院の家族会にも参加していたので、依存症については多少勉強をしてきたつもりです。でも、息子の連載から「一生付き合う病気」の意味を自覚し、体が動く限り都内から毎月の潮騒家族会に足を運んで、先輩家族や今も苦しみの渦中にある家族の皆さんと、回復に向けての思いを分かち合っていきたいと考えております。

◇　◇　◇

振り返ると、息子は若い頃から酒に飲まれるというか、酒を飲むと人が変わるような所がありました。私も含め家族は比較的酒に弱い体質なのに、どうして息子だけは酒癖が悪くなってしまったのだろうと、気にはなっていました。決定的だったのは、お嫁さんが「おかしい。死にたいと繰り返している」「包丁を出してきた。もう私達ダメかもしれない」と悲痛な連絡をしてきたときです。当時、息子は結婚して娘も生まれ、仕事の上でも順風満帆でした。親方に恵まれて自分の店（焼き鳥屋）を東京・神田の一等地に出店していたのです。繁盛店となり、テレビでも取り上げられました。でも、若いとはいえ経営者ですから仕事は大変なようでした。懸念していたように、いつしかストレスから深酒をするようになり、トラブルが相次ぎました。やがて店にも出られなくなり、資金面でも行き詰まりました。心配になって嫁が病院に連れていき、そこで初めて重いアルコール依存症と分かったのです。うつ病も併発していました。

そこから“病院のはしご”が始まりました。私も心配になって何回か見舞いに行ったり、まだ小さい孫娘を預かったりしました。私は再婚して二人目の夫との間に三人の子供を授かり、子育てに追われながらも息子（長男）の回復を願って可能なかぎり協力しました。連載でも打ち明けているように、息子は前の夫との間に生まれた子です。そのことを思春期になって息子は知り、依存症に微妙な影を落としているのかな…、と後になって考えるようになりました。

結局、息子は離婚して仕事もできなくなり、せっかく手に入れた店は嫁の兄が尻拭いする形で経営を引き継いでくれました。そうして息子は依存症の治療に励み、人生の再起を図ろうと試みるのですが、なかなか回復の道は開けませんでした。私の期待を裏切るように（それが依存症の正体そのものなのですが…）、今度は良くなったかな、と思うとスリップ（再飲酒）を繰り返しました。

アルコール専門病院で医師から「お母さん。この病気は一生治りません。息子さんは一生この病気と付き合うことになります。でも回復はできますよ」。そう告げられた時には途方に暮れました。もう私は若くはないけど、自分がお腹を傷めて産んだ子だから命ある限り、息子の回復を信じて一緒に歩もうと心に決めました。（続く）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年11月12日発行　SSKU増刊通巻 第6266号

がーちゃんの
極私的懺悔録
「他人事だと思って…」

その9（最終回）

自殺未遂を乗り越え潮騒で“どっこい生きてます”

【PRめいた著者プロフィール】
- ❖ アノニマスネーム「ガーゴイル」（36歳／男性）
- ❖ 出身：北関東の田舎町
- ❖ 前職：元詐欺師（自称）のような仕事＆元介護福祉士
- ❖ 病歴：鬱病・発達障害・自閉症・各種依存症（薬物・アルコール・女性・対人関係 ets）

「石に布団は着せられぬ」の教えのように、できることなら親が生きているうちに孝行はしたいものだが、現実は「孝行のしたい時分に親はなし」。私の家族（両親と妹）は半年前に私を残して全員この世を去った。生き残ったのは酒精中毒（アルコール依存症）のボンクラ男ただ一人。その私ときたら、親が命と引き換えにした生命保険の遺産1,500万円を、たった半年で酒と風俗にすべて使い果たした。何という罰当たり人間のクズ、人非人…。

で、貯金残高は3万円となり、悠々自適？ はずだったはずの無職生活も終止符を打たざるを得ない。米櫃にはコメがナイチンゲール。家にはお金がナイジェリア。ああ、そんなダジャレが今は空しい。嫌々ながらも生活の面倒を見てくれる知人、友人、親戚等は、会う度に金の無心と酒臭い息を吐く私から離れた。

いつしか私の交遊関係はキャバクラとソープランドのホステス嬢になったが、もはや金を使い果たしたアル中の私など、彼女達には頭の下げられない米つきバッタ以下の存在。恥ずかしい話だが、行き付けのホステス嬢にも金を無心したのが一度や二度ではない。サラ金、銀行、クレジット会社、消費者金融に土下座するように融資を願ったが、すべて審査に落ちた。当たり前か…。

それなのに私ときたら、まだ3万円があるからとウイスキーと焼酎を買ってしまった。例によって、私の頭の中には同じフレーズが。「酒なんていつでもやめられるさ」と。でも、無理だった。「今日は飲むまい」と頭では考えていても、何だかんだ理由をつけて飲んでしまう。もはや自分の力ではどうにもならないコントロール不能状態に陥っていた。私の脳みそには酒毒が回り、ぼんやりと人生の幕切れを考えるようになった。そう「自死」である。

今の私は税金、年金、電気、水道、ガス代も払えない。そんな生活が、前回の精神病院退院から続いている。何かのドラマだったか、「“明日やろう”は、ばか野郎」なんて台詞もあったが、明日に問題解決を先延ばしにしてきたのが私のアル中人生だった。挙句に金は無くなり、身内は草葉の陰に隠れ、手元に残ったのは角の取れた飲み屋のねーちゃんの名刺だけである。人生極まれり、圧倒的な孤独が私を襲った。酒毒でまともな思考ができなくなった私は、「自死」に向かっていくしかなかった。これが自業自得の成れの果てか、「酒のない人生なんてくそくらえ！」だったのに…。

真言密教のマントラを唱えながら首をくくったが…

手持ちの金が1万円を切ると私はホームセンターでロープを買い、インターネットで首吊りの方法やロープの縛り方を調べ、父と母、同じく自殺した妹の月命日の重なる九月の下旬に縊死（いし）することに決めた。そして仏間の梁にロープを通し、「アビラウンキャン、ケンソワカ、アビラウンキャンソワカ」と我が家が檀家として信心する真言密教のマントラを唱え、「エイッ」とばかりに首をくくった。瞬間、私の頭は溶岩を詰められたかのごとく熱くなり、目玉は飛び出し、小便が太ももを伝い、わたしは気絶した。酒を飲んでいたので痛みは感じなかった。死は安息である。私の人生はここで終わるはずだった…。

だが気がついたら、そこは地獄でも天国でもなく、なんと病院だった。まさかとは思ったが、この世には本当に奇跡というものがあるようだ。ベッドの隣には近所に住

む、親戚のおばさんが椅子に座っていた。話を聞くと、梁に掛かっていたロープはほどけており、うつ伏せになって倒れていた私を、たまたま訪ねてきたおばさんが発見。急いで救急車を呼び、蘇生させたという。おばさんは泣いていた。「死のうとするなんて、あんたはなんて馬鹿なの…」。ひどく悲しい表情を浮かべた。

実は、おばさんからも50万円ほど借金していた。気まずい雰囲気に耐えられなくなった私は、「ハイ、それまーでーよー」と植木等の声真似でその場を誤魔化そうとした。すると、おばさんは激怒し「あんたのお父さんやお母さんは、あんたのことを最後まで心配していたんだよ。親不孝も大概にしな！」。私は返す言葉がなかった。その時の心情を太宰治風に表すなら、生きることに対する純粋な応援に思えた。

死ぬことも生きることも どうにもならなくなった

でも私は酒精中毒の一文無し、人生の敗北者…。自主独立で生きているホームレスの方がよっぽど立派である。おばさんは「命拾いしたんだから、死んだ家族への孝行だと思って酒をきっぱりやめなさい」と諭した。私は正直に「無理です。明日から暮らしていく金も無いんだから…」と切り返した。するとおばさんは、素早く市役所に電話して生活保護の手続きの仕方を調べてくれた。そしてひと言。「何としても生きなさい。天国に旅だった家族に少しでも詫びる気持ちがあるなら、死んでも酒を飲んじゃダメ！」。語の矛盾はどうでもいい。ダメ人間の私をきつく叱り、情けを掛けてくれた。

その時、父親が死に際に言い残した「頼むから酒をやめてくれ！」の言葉がよみがえった。瞬間、私は初めて「底をついた」と思えた。酒を飲み始めて20年。酒に酔って傷つけた人間は数知れず、自分の罪深さに吐き気がした。その後はケースワーカーや福祉課職員と面談し、生活保護を申請した。病院を退院した後は、一から出直すつもりで福祉制度の恩恵を受けようと、手続きに走り回った。障害者手帳の更新、年金支払いの中断、各種借金の支払い遅延申請、銀行口座の残高コピーの提出、辛うじて関わりのあった叔父に後見人になってもらい、精神科病院の入院に協力を仰いだ。

約1ヶ月間、各種手続きに奔走した。ヘトヘトになった私は、あろうことか居候させてもらっていたおばさんの家で酒を飲んでしまった。シラフの人には到底、理解できないだろうが、これがアルコール依存症の正体である。酒をやめるには死ぬしかないのか…。私は自己嫌悪に陥った。でも私は、もはや死ぬことにも失敗している。もう生きることも死ぬこともできず、どうしようもなくなっていた。私はアルコール病棟を持つ精神科病院に入院した。気が付くと、入院生活は1年間に及んでいた。

強制退院で潮騒につながるも 未だ回復はままならず

最初は3ヶ月で退院し社会復帰するつもりだったが、私はその精神病院がとても居心地が良くなってしまった。社会生活を送ることに、会社勤めのストレスに、煩わしい人間関係に、何よりも人の間で生きることに疲れ果てていた私は、入院中は酒を一滴も飲まなかった。でも、今度は処方薬で心を麻痺させてしまっていた。そして入院中の女性を一方的に愛してしまったのである。だが所詮は叶わぬ恋だった。互いに傷つけ合う関係となり、最終的にそれが原因で私は強制退院となった。

女性依存の共依存―アディクトにはよくあるケースだ。自分でまいた種（病院内での女性問題）が一年掛かりで肥大化し大木に成長していたのだが、アディクトの私に問題があるとは気づけなかった。退院一週間前、婦長から自宅に帰るか依存症回復施設にいくか聞かれた。私にはもう自宅に帰る選択肢は無かった。自宅で待っているのは自堕落な生活と酒の誘惑である。同じことの繰り返しになるのは自明だった。婦長にそのことを伝えると、潮騒ジョブトレーニングセンターを紹介された。それが去年の6月だから、私はかれこれ1年半近く潮騒にいる。今は「酒は一切やめている」と言いたいところだが、敵は巧妙でちょっとした心の隙間を狙って攻めて来る。なかなか断ち切ることは難しい。ただ、みんなも不安なのだ。怖いのだ。だから仲間と一緒にやめられるように、今日一日をなんとかやり過ごしている。ミーティングで思いの丈を吐き出しても、どうしても囚われてしまうこともある。きちんと仲間の話を聞いて、回復プログラムを繰り返すしかない。この先、何度か失敗するかもしれない。でも、いいと思う。まだまだ回復にはほど遠い私の道のりだが、この道を歩くのは一人ではない。

みんな、諦めず、根気よく、金はなくても女に持てるような“イカすguy（ガイ）”を目指そうぜ！その時にお酒や薬が必要なくなっているといいなあ。最後は、私のお気に入りの言葉で締めます。

「苦しいこともあるだろう。言いたいこともあるだろう。不満なこともあるだろう。腹のたつこともあるだろう。泣きたいこともあるだろう。これらをじっとこらえてゆくのが男の修行である」

God bless my family siosai!＝潮騒の仲間達に神のご加護を！（終わり）

亡くなった仲間へのレクイエム

「ムラさん、カンジさん、最後まで頑張る姿勢をありがとう！」

このところ潮騒では入寮者の高齢化傾向もあって、年配の仲間の訃報が続いています。10月7日には「デイサービス百寿」利用者のムラ（本名・村岡政治）さんが亡くなりました（享年81歳）。その後11月4日にはカンジ（本名・高橋完司）さんが天に召されました（享年67歳）。月をまたいだ二人の死で、デイサービス百寿には大きな衝撃が走りました。お二人とも百寿を長くご利用されていただいていた方ですし、百寿のムードメーカー的な存在の方でした。百寿代表の立場からは、「デイサービス施設としてもっとできることがあったのでは…」と悔やまれます。ただ、最後のお別れは大勢の仲間達に見送っていただくことができ、とても良かったと思います。

ムラさんは生前、「死ぬ前に一度は故郷の熊本に帰りたい」と話されていました。80歳を越える年齢ではありましたがパワフルな、そして優しい方でした。「お金を持つとお酒を飲んでしまうから持ちたくない。その代わりヤクルトを買って来てくださいよ」とよく話されていました。長くアルコール依存症に苦しんできた過去を持ちながらも、人生の晩年はアルコールを飲まない、新しい人生を手に入れようと、まるで子供のような純真さと頑張りで施設生活を送っていました。亡くなる当日もいつもと変わらず、同じ時間に食事を取り、部屋で休まれていたようです。合掌。

◇ ◇ ◇

カンジさんは施設における“お祭り男”でした。賑やかなことが大好きで、百寿ではイベントの盛り上げ隊長でした。カラオケも大好きでマイクを離さない方でした。でも決して自己中心的ではなく、とても仲間思いで男気のある方でもありました。生前「家族に迷惑を掛け続けてきた。酒をやめて良くなったら（千葉県）松戸に戻って、家族に謝罪したいんだ。だから俺、この歳でも回復できるよう頑張るよ！」と前向きに話されていました。そんなカンジさんでしたが、長年に及ぶアルコール依存症の影響からか、本人の前向きな姿勢とは裏腹に容赦なく内臓疾患が進んでいました。お腹の張りがひどく、食欲もなくなり、病院で受診したところステージ4の癌が発覚、即日入院となりましたが、悲しいかな回復に向けた治療が困難な終末期医療の状態でした。

しかしながら、お二人とも最後まで依存症の回復を目指し、生きる希望を持ちながら闘病生活を続けました。私達職員・スタッフも、こんなにすぐに何かが起こるとは思っていませんでした。改めて、介護の世界に「大丈夫」はないんだな、と痛感しています。いろいろと後悔が先に立ちますが、私達は神様のように全能者ではありません。当然ながらできる事、できない事があります。

今回お二人の死から、私達百寿の職員・スタッフは今後も、出来る限り利用者の皆さんに耳を傾け、できる限り声を汲み取り、後回しにしない事の重要さを改めて感じました。利用者の皆さんに寄り添い、生きる活力・希望を最大限にサポートしていける体制作りに励んでいきたいと思います。命と引き換えに新たな「学び」を私達に体得させてくれた、お二人のご冥福をお祈りいたします。ムラさん、カンジさんありがとう。そしてお疲れ様でした。（マコト）

受刑者からの手紙

受刑者の皆さんに潮騒通信を熱心に読んで頂けるのは、編集制作側にとって大きな励みです。四季折々の潮騒での活動や施設運営の考え方などを紹介していますが、まだまだ未熟さは隠せません。より良い紙面作りに向けて、受刑者の皆さんからの紙面への注文・意見などをお待ちしています。

リカパレ旗を持つセンター長の表紙写真が素晴らしい

秋も深まり肌寒さを感じるほどになりました。栗原様、シゲさん、全国の潮騒会員の皆様、お元気ですか。潮騒通信「どっこい生きてます」とリカバリーパレード「回復の祭典」のパンフレットおよびシゲさんからのお手紙、うれしく拝受致しました。潮騒通信とシゲさんのお手紙は何度も何度も読み返し、夢と希望を味わいました。リカバリーパレードの旗を栗原センター長が振っている表紙写真が素晴らしく、美しいです。東京・新宿のリカパレにも仲間の皆さんが参加されたことが報じられ、色とりどりのコスチュームとプラカードを持ち、潮騒エイサー隊の皆さんが先頭で、その後ろから潮騒の仲間達が行進、社会の皆さんに依存症に関するアピールを声がかれるほど叫び続けたとのことで、私も深く感動し、その皆様の勇姿が、また情景が瞼に浮かびました。

潮騒から参加された皆様、本当にご苦労様でした。私も早く出所して、いろいろな潮騒の行事にご一緒させて頂きたく思い、日々元気に就業生活に励んでいます。　（神奈川県、O・Y）

毎月の便りに受刑者はたくさんの勇気をもらっている

栗原センター長＆シゲさん。その後いかがお過ごしでしょうか。お陰様で私は毎日、元気に受刑生活を送っております。振り返ると当地では、夏場の異常な暑さで7、8月はグラウンドでの運動が中止となり、私は 10月の運動会のメンバーや応援団の演技を考えたりしていました。他にも 7 月に仮面接が掛かり、本面を待ちました。過去の受刑時での苦い思い出が頭をよぎったりもしましたが、今回はその様な事がなく、スムーズに出られることを勝手ながら切に祈っております。

昨日、シゲさん代筆によりますお便りが届きました。いつも本当にありがとうございます。毎月、必ず送られてきますお便りに、私達受刑者がどれほどたくさんの勇気をもらっておりますことか分かりません。私も一日も早く此処から出て、ご一緒に回復を目指して行きたいと思いますので、これからもよろしくお願い致します。　（長崎県 O・K）

社会化の命題に対して解決方法を具体的にしたい

拝啓。ますます御清祥の事、御慶び申し上げます。先日、拘置所に於いて入所案内を頂きました。当初の混乱も穏やかになり、当初念頭には無かった仮釈放制度を含めた釈放後の生活を考えるようになりました。その中で、そちらのサービス内容、費用等諸々お伺い致したく、ペンを執らせて頂いた次第です。

先ず拘留中にアディクションについて専門書を読み、自分なりに問題点を抽出して、依存状態であった、もしくはあると認識しています。そして俗にいう「底つき体験」に近いか、あるいはその通りの状態であり、社会化につき思案せねばなりません。

元々ブルーカラーでの仕事が先ず現実的ではないか？と考えています。目に見えての依存による副作用は今ありませんが、年齢も40を越しており、融通の利かない現実も考えなくてはなりません。それと同時に早く出所し、以前のように早く仕事をしたい、という思いが強くなりました。良い意味で楽観的になり、社会化という命題に対して、その解決方法を具体的にしていきたい、と考えています。

実家が農家であったことから、例えば農業に関する職業訓練にも興味があり、実際自活にはどのように結びついていくのか？ 一など自立に向けての試みはとても興味深いと思っております。　（長野県　S・T）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年11月12日発行　SSKU増刊通巻 第6266号

しおさい俳壇

11月のお題　**紅葉**

選者 **桐本石見**

人生は60歳からでもやり直せる！ No.58

センター長 栗原 豊

忙しいスタッフ研修の中で新たな自分自身を発見する

自分の子供とほぼ同年代の若い責任者に命じられた私だが、茨城県神栖市の鹿島ダルクへの移動に違和感はなかった。ダルクに漂着して一月にも満たなかったこともあり、その時はまだダルクがどんな場所なのか、本当に回復できるのか、そうした疑念の方が大きかった。鹿島ダルクは国道から海岸部に向けて少し入った住宅や工場などが立ち並ぶ地域にあった。キリスト教会だった建物を施設に充てていたが、老朽化しているものの仲間達が集団生活するには十分な空間だった。移動して分かったのだが、自分が最年長のアディクトだと思っていたのが、なんと66歳の年配シンナー依存入寮者がいた。中心は20～30代だったが、50代の面々もおり、入寮者の世代幅が大きいのにはやや驚いた。

そんな風に始まった鹿島ダルクでの生活も日数が経つに連れて、私のなかに仲間への連帯意識が日増しに強くなっていった。「刑務所内で一緒だった面々とも様々な話をし、仲良くはなったが、あの中での会話はほとんどが信憑性のないホラ話ばかり。しかし、ここではみな同じ薬物依存からの回復を目指す、同じ目標へと日々前進していく仲間だ、真っすぐな一つの志がある…」。この頃から私は「自分が覚醒剤と縁が切れなかったのは、どうやら根本に依存症という困難な病気があるからではないか」と思うようになった。しかし、過去の生き方が生き方だけに、自分が薬物依存症だと認めることには、まだためらいがあった。

そうした迷いの中、鹿島ダルクでの日々はとても早く過ぎていった。若い責任者から指名されたスタッフ研修が、日々の多忙さに拍車を掛けていたからだった。私はその多忙さがいつの間にかある種の喜びに変わっていくのを感じていた。今振り返っても、私には鹿島ダルクではベッドに寝ていた記憶がない。施設のため、入寮者のためにと日々銀行や役所をまわり、暇があれば植木の手入れや掃除などを積極的にこなしていた。不思議なことに、そこには見返りを求めず、進んで何事にも取り組む自分がいた。それこそ「新たな自分自身」の発見だった。もはやクスリを売って小遣いを稼ごうとするような考えは、どこかに消えてしまっていた。（次号に続く）

佳作

山々の色とりどりの紅葉かな	マコ
一枚の紅葉を本の栞とす	くま
見ても佳し食べてまたよき紅葉山	チャコ
我が子の手もじみたいで可愛いな	いるか
赤とんぼ青きお空に止るごと	ゆうこ
懐かしや子供の頃の紅葉狩り	なん
山風にはらはら揺るる紅葉かな	めい
紅葉して里の山々美しき	ピノコ
晴天の並木に仰ぐ紅葉かな	あきら
己が子と紅葉見し日も遠きかな	あお
人去りし後もひたすら散る紅葉	アベ
夕焼けの空に溶け合ふ紅葉かな	くそじじ
欠席の悔いもありけり敬老日	ゆたか

特選句

紅葉狩り
見上ぐる先は
筑波山

みく

筑波山は関東の名山で標高八七十メートル、古くから歌垣の山としても名高く、春の梅、桜も美しい。この詠はその筑波山への途次でどの道だろうか、石岡市、土浦市、笠間市（岩間地区）などの道がある、車窓から仰ぐ山も晴れて紅葉狩りに心の弾む句で、帰途の柿や蜜柑狩りも楽しい。

特選句

袋田の
滝を彩る
紅葉かな

ひろ

袋田の滝は茨城県大子町にあり、華厳の滝、那智の滝と共に日本三名瀑の一つ。昔に西行法師が尋ねてこの滝は春夏秋冬の四度見なければ良さが分からない、と称えたと言われる。滝は四度に落ち冬の凍結も美しい。瀑布の白と紅葉の色合いもまた美しい旅の句です。

特選句

古里へ
贈る苗木も
紅葉なす

アベ

この茨城、千葉は苗木の育成の盛んな所で、珍しい花や果物の苗がある。また秋は苗木の植え付けや株分けに良い時期でもある。里には無い苗木を見つけたのか、何かの記念の贈呈用の苗かも。柿、栗、桜、梅、など広葉樹はみな苗でも紅葉になる。里の紅葉山も懐かしむ句です。

秀逸句　今月の秀逸句

楓の
木桧林に紅一点

くそじじ

一般に紅葉は楓のことを言い、黄色から紅色になるのは美しく、他の木の紅葉の代表でもある。他にも雑木や欅（けやき）、柏などあるが、それは別な趣があります。桧林の中の一本の楓の紅葉は格別に目立ち美しい。

山紅葉
道の休みにとろろ蕎麦

くみ

紅葉狩りに行くと大方は休み処や土産物屋があり、紅葉饅頭と蕎麦がある。それらを食べながら紅葉の風情に浸るのも旅で、一句も詠みたい思いになります。

いろは坂
見頃迎えし紅葉かな

ひろ

日光のいろは坂は奈良時代に男体山の山岳信仰の道として開かれ、大正時代に中禅寺湖湖畔に大使館の別荘が建てられて交通も頻繁になり整備された、曲りがいろはの四十八あるとして、この名がある。昭和四十年に第二いろは坂も開通した。紅葉の頃は渋滞もするが、眺めは美しい旅の句です。

孫の手は
紅葉みたいや可愛いね

コバ

昔から赤子の手の可愛らしさを紅葉の様な手と言う。紅葉は本来、文字の様に秋の紅い葉のことであるが、楓が一番赤くなり葉の形も子の手に似ているのでこの呼称になった。楓（かえで）の様な手が正しい。そう言う理屈は抜きにして児の手の薄紅は可愛い実感の句です。

山紅葉
入りて染まれよこの身まで

しま

紅葉にも楓、楢（なら）、櫟（くぬぎ）、桜、山毛欅（ぶな）などありますが、楓が一番赤く美しく、晴天の日は燃える様でもあります。その山路を行くと我が身も赤々と染まりたい思いになります。少しのメルヘンを誘う句です。

古宿や
月も紅葉も新なり

ゆたか

旅の宿は新しく綺麗なのも良いが、山国の古い手入れの良い宿も趣があります。木造で床なども磨かれ、女将の上品なもてなしには心も温まる。それに途中の道や山の紅葉は毎年新しく夕月も美しい。実感の旅の句です。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年11月12日発行　SSKU増刊通巻 第6266号

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～ 「アル中のシゲ」の巻 第5回

暴力とクレイマーの末に人生たった1回の逮捕に至る

アルコールですっかり狂っていた時だったので記憶もまばらですが、私は勤めていた会社をやめ、相変わらず酒浸りの日々を送っていました。家の近所にある公園のベンチで、あるいは行きつけの喫茶店で、さらに極めつけは居酒屋で毎日夜通し飲み続ける日々を送っておりました。楽しいお酒の時もありますが、時間が過ぎると私自身の状況は一変というより、急変してしまいます。まるでジキルとハイドです。ある時にはCDショップの女性店長に「わたしがレンタルしたCDに傷がついていたぞ」と難癖をつけ、しこたま酔っぱらっていた私は「弁償しなければひどい目に遭わせるぞ」と脅してしまいました。最終的には「家まで送っていけ」とすごんで女性店長の自家用車に乗り込み、3時間ほどドライブをさせて自宅まで送らせました。今考えると当たり前のことですが、家の前には既にパトカーが5台止まっていて、すぐさま警察による事情聴取が始まりました。私はひどく酔っぱらっていたので、警察官に話したことは滅茶苦茶だったと思います。女性店長もよほどあきれ果てたのか、「告訴も告発もしない」ということで、私は何のお咎めもありませんでした。

そんな私ですが、幸か不幸か今まで警察に逮捕されたことは一度しかありません。その1回について記します。当時、私は完全にアルコールの支配下にあり、その日も知り合いの飲食店で、仲間とくだを巻いていました。しかし、例によって私の精神の状態が急変。冗談を言った仲間に大層、腹を立て「ぶっ殺してやる！」と厨房に跨ぎ入り、目についた柳葉包丁を持ち出して相手を追い駆け回したのです。その途中、騒ぎを聞き付けた警察官に制圧され、結局私はそのまま銃刀法違反で逮捕です。手錠を掛けられ、人生で初めて留置場に入れられました。でも結果は、9日間の拘留・10万円の罰金で簡単に釈放され、私はタクシーを呼び、地元に戻ることにしました。当時の私には、人生で初めて逮捕されたことへの反省などまるでなく、頭のなかに渦巻くのはこんな事態を導いた仲間への憎悪と、早くアルコールにありつきたいという渇望しかありませんでした。私はアルコール依存によって、謙虚さを失った自己中心型の人格が完全に出来上がっていたのでした。

（次号に続く）

11月のバースデイ

ナン

72歳万歳！

ヤス

これからも頑張ります。

ヒデ

早く結婚したい！

ノッコ

あまり歳を
とりたくないです。

ベンツ

目指せ自立！

マヤ

潮騒に来て
二回目の誕生日です。

ミツオ

皆の分まで長生きします。

ロク

これからも健康で
頑張ります。

ケン

残りの人生もやるぞー！

シロ

今日一日、感謝

キム

出世頭です。

11月の行事

11月3･4日　2018年「第12回て～ら祭」
11月8日　潮騒俳句会
11月11･17日　秋元病院メッセージ
11月25日　潮騒家族会

12月の行事予定

12月2日　潮騒 JTC13周年フォーラム
12月9･15日　秋元病院メッセージ
12月13日　潮騒俳句会
12月25日　潮騒クリスマス会
12月28日　年末恒例潮騒餅つき大会

献金・献品を頂いた方

（11月15日現在）

・内堀 高良 様　・BooBu 様
・井坂 松美 様　・高田 武義 様
・鹿行シバウラ 様　・坂西 学 様
・荒木 龍彦 様　・武田 志保 様
・茨城ダルク 様　・吉村 由美子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

今月号でガーちゃんの連載が終わります。お読みいただいて「あれ、これまでと違って文章のトーンが抑制的に感じられるな」との印象を持たれた方も多いと推察します。確かに、世の中に対する敵意や攻撃性、厭世的な恨みを含んだ“毒”のある表現が弱まっています ▼むしろ最終回では、彼が「毒を持って毒を制する」かのように、自己破壊的な依存症人生を突き進んできた背景が赤裸々に描かれています。しかも、内省的な視線をもって自分に正直に向かい合い、潮騒につながった今も思うように回復のレールに乗れないもどかしさを吐露しています ▼潮騒に登場する人達の多くは、程度の差こそあれ家庭崩壊に近い体験を経ていますが、彼の場合は自身も含めて家族が悪魔に魅入られたように「自死」を共有する不幸を背負っているところがあり、その悲劇的な運命を彼は「書くこと」で乗り切ろうとしているかのようです ▼ハイヤーパワーとは対極にあるような、何か得体のしれない巨大な暗い運命に抗って自暴自棄的な人生を歩んできた彼が、幸運にも九死に一生を得て「書くこと」で命をつなぎとめられるなら、今後も彼には潮騒通信を自分の表現の居場所にしてもらいたいと思います ▼そうは言っても、潮騒通信は回復施設のニュースレターという性格と制約があるのは承知の通りです。潮騒の仲間達の共有財産でもあるので、一人の入寮者が貴重な紙面2ページを長期にわたり“独占”するのはどうか、という配慮も加えなくてはなりません ▼潮騒通信には、明確な表現コード（掲載基準）のようなものはありませんが、アモルフ（形無し）なパワーと人間の本音の強さ、管理と支配を嫌い、ある種の「いい加減さ」が救いに繋がる…という、ダルクや潮騒の「常識」は他の表現媒体とは一線を画すものだと考えています ▼「…始め、このような文の連載はどうなのか？と思っていましたが、重度の依存症者の真理や心情のアンバランスで危機的な実態を知る上では、大きな手掛かりになるように思うようになりました。聖書、特に旧約聖書は、なぜあんなにも人間のダメさぶりを書くのだろうと私は考え続け、キレイゴトではないからこそ聖いのだ、と気づきました。がーちゃんの連載文も病める心の表明（叫び）としての文ですね。知識はあっても歪んでいると感じます」（支援者 の白田美鶴さん）▼“芸は身を助ける” ではありませんが、稚拙であっても表現活動で救われるアディクトがいてもいいはずです。潮騒エイサーで達成感を得ているように…。（市）

潮騒通信　どっこい生きてます！　2018年11月

Contents

P❷ 人間としての回復、再建、再構築の段階に
P❸ て～ら祭 2日間で100円焼きそば2,300食を売り切る
P❹ 「潮騒人間塾」日本ダルク・スタッフ 田代まさし（マーシー）氏
P❻ ブーちゃん 県定時制生徒生活発表大会に出場
P❼ 潮騒家族会からのメッセージ　ブーちゃんの母
P❽ がーちゃんの極私的懺悔録 その9
～自殺未遂を乗り越え潮騒で“どっこい生きてます”
P❿ 「ムラさん、カンジさん、最後まで頑張る姿勢をありがとう！」
P⓫ 受刑者からの手紙
P⓬ しおさい俳壇　11月のお題「紅葉」
P⓮ どっこい私も生きてます「アル中のシゲ回復記」／11月のバースデイ
P⓯ 行事予定 ／ 編集後記 ／ 献金・献品 ／ 目次

■ 編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
（潮騒アディクション・ケアセンター）
〒314－0031 茨城県鹿嶋市宮中4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール　k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ　http://shiosaidarc.com/

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年11月12日発行　SSKU増刊通巻 第6266号

発行所　〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2018年11月12日発行　SSKU 通巻増刊 第6266号